

イングランドの風景を北海道で 味わえる根室の絶景フットパス



小川 浩一郎 (おがわ こういちろう)

(株)ジオ (THE-O) 代表取締役

1980年札幌市生まれ。2001年エコ・ネットワーク代表代行、13年北海道科学大学客員准教授。札幌市南区常盤で育つ。『フットパス』をキーワードに市内、道内、国内で普及活動、ウォークイベントを実施し、ワールドウォーカーとして世界の「フットパス」を歩いている。「歩く」ことを通じて自然あふれる都市・札幌を観光客へ伝えるべく奮闘中。著書に「北海道フットパスガイド①」「北海道フットパスガイド②」。

根室にある英国のフットパス

フットパスの本場は英国です。毎年彼の地を歩かに行きますが、同行者は英国の田園風景の中を歩くことを楽しみにしているという人がほとんどです。ですが、英国まで行かなくてもその風景を味わえるフットパスが根室市にあります。

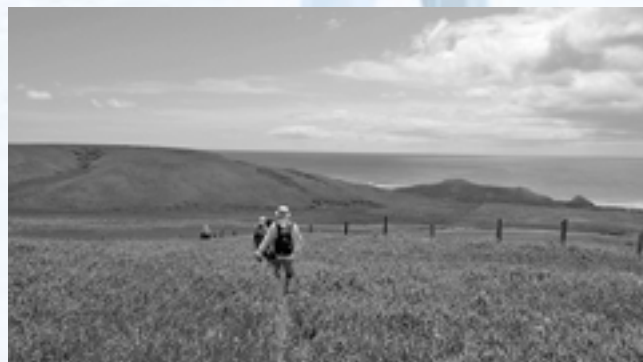
2003年に根室市厚床^{あつとこ}から別当^{べつとう}賀^がの5人の酪農家たち「酪農家集団AB-MOBIT」がフットパスを完成させました。AB-MOBITの「AB」は「厚床 (A)」「別当賀 (B)」から、「MOBIT」は5人の酪農家たちのイニシャルからとられています。フットパス整備のみならずワークショップや講座なども行われており、フットパスを地域活性化のツールとして活用しています。

根室フットパスの大きな特徴のひとつは、何といても圧倒的な大景観にあります。2018年現在AB-MOBITが整備しているフットパスは「厚床^{あつとこ}パス」「初田^{はつた}牛^{うし}パス」「別当^{べつとう}賀^がパス」「明郷^{あけさと}パス」の4つ、そして隣の落石^{おちいし}集落に漁師の人たちにより作られた「浜松^{はまつ}パス」「落石^{おちいし}岬^{さき}パス」の合計6つのルートがあります。そのほぼすべてのルート上で日本とは思えないような田園、海岸、自然景観を楽しむことができます。歩いた人誰もが息を飲む、素晴らしい景観です。

英国に引けを取らない景観

現在、北海道を除く日本のフットパスは、地域活性化や歴史・文化などが主として大きなウエイトを占めるフットパスが主流になりつつあります。いわば英国のフットパスとは一線を画した「日本流フットパス」が多くなっていますが、北海道のフットパスは本場英国流で、その中でも根室のフットパスは景観だけ見れば英国よりも英国らしいと言っても過言ではない景観を味わえます。

歩くためにはまずどのルートも通行証 (1人200円)



圧倒的大景観の別当賀パス



が必要になります。一度購入すれば何度でもそのルート歩くことができ、売り上げはコース整備費に使われています。通行証はマップとしても使えます。

別当賀パスのみ鍵付きのゲートがあるため鍵を借りなければなりません、この別当賀パスは根室フットパスの中でも一番の絶景と言っても過言ではないでしょう。いくつものテレビドラマや映画のロケ地としても使われています。

鍵は「明郷伊藤☆牧場」内の事務局でレンタルできます。ここにはカフェやレストラン、キャンプ場が併設されていて、フットパスの情報はもちろん美味しい農家レストランの食事を味わうこともできます。ビールもあるのでそれこそ英国のパブのような存在です。キャンプ場を起点に複数のフットパスを数日かけて歩くのもいいでしょう。

バラエティに富んだ飽きることのないルート

現在は明郷、厚床、初田牛、別当賀のフットパスはつながっており、ミドルパス（中距離フットパス）にもなっています。そして落石地区の2つのルートもつながりがあり、今後は厚床、別当賀と落石をつなげるフットパス調査も始まりつつあるそうです。さらに明郷から北は別海町、中標津町、標津町と続きますが、ここを通っていた旧標津線跡を活用し、「旧標津線フットパス」というロングパス（長距離フットパス）にもなっています。市町をまたぐこのフットパスは現在、根室市明郷から別海までと標津町ポー川史跡自然公園付近から中標津町近くの川北までがつながっています。この廃線跡フットパスも近い将来つながるのではないのでしょうか。

厚床、初田牛、別当賀パスは一番古くからあります。厚床パスは厚床駅を周回するルートです。「明郷伊藤☆牧場」や厚床の集落、牧草地に廃線跡とバラエティ

に富んでいて、飽きることなく歩けます。初田牛パスは自転車も利用可能でその分距離も長くなっていますが、「歩く」のみならず「自転車」でも楽しめるルートです。別当賀は前述したとおり、圧倒的な自然系を味わうことができるルートです。運が良ければ特別天然記念物のタンチョウを見ることもできるかもしれません。

浜松パス、落石岬パスはAB-MOBITの盛り上がりを受け、落石地区の漁師の人たちを中心に整備されたルートです。落石の海岸景観や放牧地などを歩くルートで放牧馬やエゾシカに出合えることもあるでしょう。落石岬ではかつての無線局が銅版画家・池田良二さんのスタジオにも使われていて、芸術的なフットパスイベントも行われています。

旧標津線フットパスは根室市に留まらず周辺の町を巻き込み行われています。明郷パスが別海町の奥行臼駅通までつながっていて、ここから先は別海町のフットパス関係者が整備しています。線路跡ということもあり、アップダウンがなく、誰でも楽しめます。また湿原内を歩くため景色は幻想的で、流れる河川に架けられた橋なども歩くことができます。秋には旧標津線フットパスのイベントも計画されています。

簡単に根室のフットパスの見どころを紹介しましたが、まだまだ語り尽くすことができません。それぞれがそれぞれの特徴を持っているため、一つひとつのコースを紹介するには多くの頁を割かなければなりません。これから秋になり、気候もフットパスを歩きやすくなります。是非、一度直接歩いてみることをお勧めします。最後になりますが、マップもしっかりしていて、道標・コースサインも優れているため迷う心配もなく個人でも十分に歩くことができます。英国まで行くのは時間もお金もかかりますが、根室で英国並みのフットパスを楽しんでみてください。



事務局のある農家レストラン「ATTOKO」



放牧場を眺めながら歩ける浜松パス